

経済・金融
フラッシュ企業物価指数 2025 年 7 月
～国内企業物価は 4 ヶ月連続で伸びが縮小～

経済研究部 研究員 佐藤 雅之

TEL:03-3512-1831 E-mail: m-sato@nli-research.co.jp

1. 国内企業物価の上昇率は 2 ヶ月連続の 2% 台

日本銀行が 8 月 13 日に発表した企業物価指数によると、2025 年 7 月の国内企業物価は、前年比 2.6%（6 月：同 2.9%）と 4 ヶ月連続で伸びが縮小した。

内訳をみると 23 類別中、17 類別が上昇し、6 類別が低下となった。コメ価格の高騰が続いていることから、精米は前年比 74.1%（6 月：同 76.6%）、玄米は同 75.0%（6 月：同 73.8%）と高い伸びが継続しており、農林水産物は前年比 42.2%（6 月：同 43.1%）となった。

また、チョコレート（前年比 38.5%）、コーヒー（同 30.9%）、米菓（同 11.3%）、ジュース（同 11.7%）などが 2 ケタの伸びとなり、飲食料品は前年比 4.2%（6 月：同 4.5%）と高い伸びが続いている。

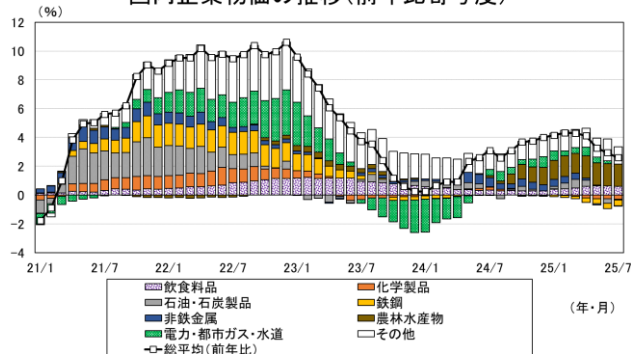
一方、原油安や円高の影響などから、都市ガスが前年比▲4.2%（6 月：同 0.2%）とマイナスに転じたほか、事業用電力が同 0.9%（6 月：同 4.0%）と 6 月から伸びが縮小したことで、電力・都市ガス・水道は前年比▲0.1%（6 月：同 3.2%）となった。

企業物価指数の推移

	国内企業物価		輸出物価 （円ベース）		輸入物価 （円ベース）	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
24年 6月	0.2	2.6	0.8	10.5	0.6	9.6
7月	0.6	3.1	0.0	10.3	0.4	10.7
8月	-0.2	2.6	-5.2	2.5	-6.2	2.5
9月	0.3	3.1	-1.7	-1.0	-2.9	-2.6
10月	0.4	3.7	2.5	0.9	2.9	-2.3
11月	0.3	3.8	1.9	2.5	1.7	-1.2
12月	0.5	4.0	-0.7	4.5	-0.7	1.4
25年 1月	0.2	4.2	1.4	4.7	1.3	2.2
2月	0.3	4.3	-1.5	1.8	-1.9	-1.1
3月	0.3	4.3	-1.1	0.0	-1.7	-2.5
4月	0.3	4.1	-2.0	-4.1	-2.9	-7.3
5月	-0.1	3.3	-0.8	-6.4	-1.0	-10.3
6月	-0.1	2.9	0.2	-6.9	-1.6	-12.2
7月	0.2	2.6	1.6	-5.4	2.4	-10.4

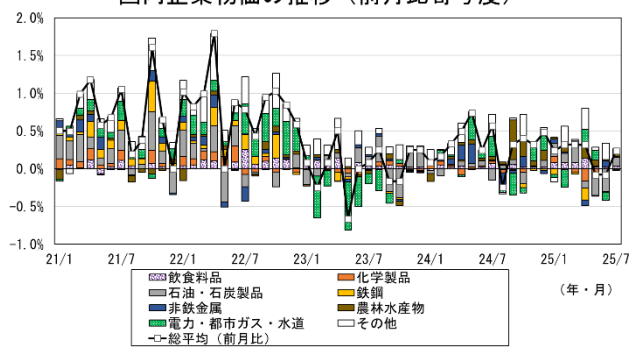
（資料）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価の推移（前年比寄与度）



（資料）日本銀行「企業物価指数」

国内企業物価の推移（前月比寄与度）



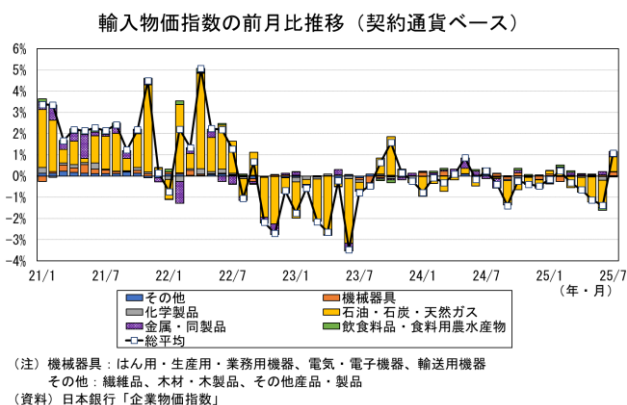
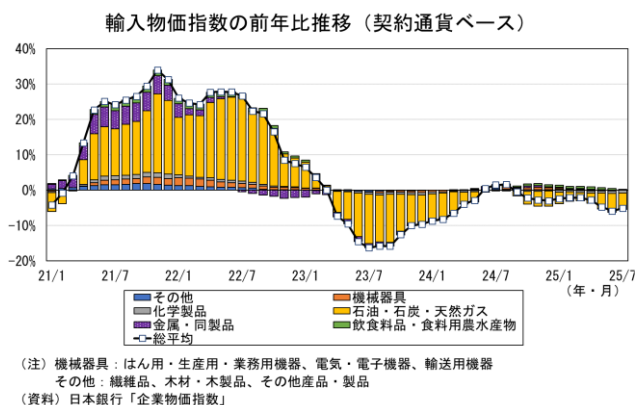
（資料）日本銀行「企業物価指数」

2. 契約通貨ベースの輸入物価は前年比▲5.1%

7月の契約通貨ベースの輸入物価は、前年比▲5.1%（6月：同▲5.9%）と11ヵ月連続のマイナスとなった。内訳をみると、ガソリンが前年比▲12.3%と12ヵ月連続のマイナス、ジェット燃料油が同▲9.4%となったことなどから、石油・石炭・天然ガスは前年比▲15.1%（6月：同▲16.6%）と11ヵ月連続のマイナスとなった。

一方、契約通貨ベースの前月比では、1.1%（6月：同▲1.4%）と5ヵ月ぶりのプラスとなった。内訳をみると、原油が前月比5.8%（6月：同▲8.1%）、ナフサが同1.8%（6月：同▲5.7%）と上昇に転じたことなどから、石油・石炭・天然ガスは前月比2.6%（6月：同▲4.6%）と5ヵ月ぶりのプラスとなり、全体を押し上げた。

7月の為替相場は、対ドルでは146円台（前月比1.5%）と6月から円安ドル高で推移したことで、円ベースの輸入物価は前月比2.4%（6月：同▲1.6%）と6ヵ月ぶりのプラスとなった。



3. 先行きの国内企業物価は前年比2%台で推移すると予想

国内企業物価は前年比の伸び率が前月から鈍化し、2ヵ月連続で2%台となった。先行きについては、飲食料品の上昇率が前年比4.2%と2023年夏頃（同8%台後半）に比べれば低水準にとどまっているものの、食料品値上げの動きはしばらく続く可能性が高い。

一方、2025年7～9月使用分で再開される電気・都市ガス代の支援策は、エネルギー価格の上昇率を押し下げる要因になると見込まれる。さらに、農林水産省が8月12日に発表した7月28日の週のコメの平均店頭価格は3,542円/5kgと、6月中旬以降は3,600円前後で概ね横ばいに推移している。今後は前年の急上昇の裏が出やすくなることが考えられ、コメ価格の前年比の伸びは次第に鈍化していくことが見込まれる。以上より、先行きの国内企業物価は2%台で推移すると予想する。